

## ネットワーク構築助成研究者の声

### ○特に有意義だった本助成金の使途についてお聞かせください

A 先生

渡航費や会議費における自由度の高い執行が有効でした。学会出張の際に滞在を延長して現地研究者との更なる交流や、海外著名な研究者とのくつろいだ雰囲気での意見交換に役立ちました。

B 先生

国際学会開催に伴うシンポジウム、会議招集のための旅費等ネットワーク構築に必要な直接対話に特に有意義でした。

C 先生

国際共同研究を実施する際、現地でのテクニカルスタッフを雇用する財源は限られており、一部助成金を使うことができたのは有意義でした。

D 先生

まだ実績がない分野や地域を訪ね、ネットワークを構築し、研究の種を探しに出向くことはこれまでの自身の分野を超える点で有意義な機会であり、自身の研究のターニングポイントと言えるものでした。

E 先生

海外（シンガポール、タイ、台湾）において「直接会って話をする」「実際のフィールド調査」するために利用しました。本助成があったからこそ、フットワーク軽く数々の集会に参加でき、次の共同調査の話に発展できました。

F 先生

研究者間での共同研究だけでなく、研究室間での交流（研究議論や研究室訪問、更なる次の申請に向けた話し合い）に活用できたことが良かったです。

### ○助成研究終了後、更にどのようなことにつながりましたか

A 先生

継続した研究交流から国際共同研究の公募を互いにチェックしあう状況を維持しています。友人になる、その紹介でさらに研究者の輪が広がる、これらは将来の研究シーズを得るうえで極めて重要と感じます。

B 先生

国際共同研究の開始、国際学会の誘致、ISO 基準の策定の開始（国際的な標準化に向けての委員会の設置）につながっております。

C 先生

シンポジウムの開催、大型競争的資金の獲得、国際共同研究の開始につながりました。

G 先生

3件の共同研究（国内・国際）がスタートし、研究を進めていった結果、2報の国際誌の掲

載に至りました。大型競争的資金の獲得に向けて取り組んでいたところですが、残念ながら採択には至りませんでした。しかしながら、今後も継続して共同研究していくことになっております。

D先生

学会における定期セッションの発足、ベンチャー企業（一般社団法人）の設立、民間との共同研究の発足、国際ワークショップの実施、内閣官房水循環アドバイザーの拝命につながっております。

H先生

「文化水文学」という新領域を開拓することができ、他の研究助成にも採択され、さらに研究を発展させられることとなりました。助成期間中に学会において共同企画した「文化水文学」セッションは今後も継続していきます。

E先生

本助成で形成したネットワークを利用して、総説論文の執筆を行いました。総説でまとめた知見を元に、今後大型研究費の獲得を目指していきたいと思い、申請書を提出しているところです。将来的には外国人研究者の招へい等にも繋げていきたいと考えています。

F先生

申請メンバーと話し合い、科研費学術変革領域研究（B）に申請し採択されました。我々のネットワークシーズが本助成によって成長できたことによるものです。

## ○その他の感想

B先生

若すぎてもなかなかネットワーク構築は難しいところもあると思うので、40代くらいの研究者でこれからという方に助成されていることがいいと思います。

C先生

評価委員の先生方から色々意見をいただく機会が大変勉強になりました。また国際ネットワークに重きをおいた助成を頂けたことが、様々な国際共同研究の契機になったと思います。私個人だけでなく若手研究者にとって大変重要な取り組みと思いますので、今後も継続いただければ大変ありがたいです。

E先生

私としては科研費がとれていないタイミングでしたので、大変お世話になりました。どこかのタイミングでネットワーク構築助成を受けた研究者の方々と意見交換できる場があれば良いと思っています。

以上